

長崎西高福岡同窓会

創刊号

発行 長崎西高福岡同窓会
〒819-0043 福岡市西区野方2-24-16
☎/☎092-811-5680
印刷 ダイヤモンド印刷

題字は南川健二氏 (7回)

会報の発刊に寄せて

会長 楠村 正治 (7回)



秋の気配が加わってまいりました。長崎西高同窓生の皆様には御変わりなくお過ごしのことと存じます。母校創設五十周年を機に発足しました福岡同窓会も、今年六月十四日に六回目の総会・懇親会を二〇〇名近い会員の皆様のご参加を得て盛大に開催できるまでに発展してまいりました。これもひとえに同窓生の皆様のご協力の賜物と役員・幹事

一同感謝いたしております。また、ここに至る六年間、各回の当番幹事を中心に全役員・幹事が一致協力、母校で培った自律の精神と奉仕の精神をもって真摯にそしてまた楽しく議論を重ね、試行錯誤をくりかえしつつ励んでまいりました。このような総会・懇親会の様子を都合により欠席された皆様にお伝えし、併せて出席された皆様に対しては結果報告としてお知らせするなどの広報と会員相互の親睦を図ることを目的に、この度、同窓会会報を創刊いたしました。今後は、会員の皆様にも

ご寄稿をお願いすることもあろうかと存じますので予めよろしくお願い申し上げます。さて、この機会に新任会長として一言所感を述べさせていただきます。私は、同窓会は利害得失や競争など無く、世代を超えて旧交を暖め、初対面でもすぐ打ち解けて友となり、そして互いに励ましあひ純真な昔に居る場だと思っております。福岡同窓会はまさにそのような温かい手作りの同窓会であると、この六年間の幹事としてのささやかな体験から確信いたしております。

5年間の歩み 各会実行委員に聞きました

長崎西高福岡同窓会は、創設以来満五才となり、愈々来年から小学校入学の六才となり、幼年期から少年期へと脱皮することになりました。福岡同窓会は、本校創設五十周年を期に、本校同窓会からのご要請に呼応して、現事務局長の木下師博氏他現執行部の方々を中心に企画し、平成十年十月二十六日に開催された設立総会により正式に発会いたしました。



設立総会時の登録会員数は五百名弱で、総会出席者九十九名というスケールでの発会でありました。(本年度出席者総数は二百四名)西高同窓会は、本校同窓会を中心に、在京・関西・福岡と四地区に在りますが、福岡同窓会には、他地区にはないものが一つあります。それは、旧制の長崎県立瓊浦中学校卒の方々が会員としてご加入され、毎年開催される福岡同窓

福岡同窓会の生いたち

初代会長 峰 祥躬 (4回)

の想い入れから、参加のご要請を受け、総会の賛同を得てご加入いただきました。旧制四中(女)学校から引継いだ百二十年余の西高の歴史の中で、「長幼の序」を尊び、「自律の心」をモットー



▲設立の挨拶

に、「知的に武装したバーリアン」を目指して、少年期を迎えた同窓会の永劫の発展を期待するものです。



▲まずは乾杯から。胸には名札が。

設立総会 H10.10.26

第2回総会 H11.6.7

第3回総会 H12.6.5

第4回総会 H13.6.4



▲受付は大わらわ

第5回総会 H14.6.10



▲恒例の「抽選会」

私たち四回卒は福岡同窓会発足当時は、長崎同窓会長が鈴木一郎、福岡は峰、副会長は古賀兄と、精力的な顔ぶれで、私も何か役にたたなくてはと思いながら幹事を引き受けました。思うに発足当時は五年前、六十もまだ半ば、今とそう変わりがない年のようですが、何かにつけて、そうはいかない年齢に成ったようです。世間一般に、潮時という言葉もありますが、まんざらでもない理解できる真実もあるようです。発足当時の同窓会参加者は四回卒が一番多くテーブルを囲んでいましたが、今年是一位の座から転落、残念なことです。他の卒のグループに追い越されてきました。たゞいまは、私達の方が古希を迎え、改めて「盛年重ねて来たらさ」と思い知らされます。幹事としての役割は、何と言っても、同窓の仲間にも多く参加頂くこと。若き日の青春を語り合い、明日への心の糧となること、第一の目標ではないでしょうか。禅の言葉に「話し尽くす山雲海月の情」という禅語がありますが、親しい友人同志が名利や損得を一切忘れ、心を開いて時間の限り語りあうことを言うそうです。深い交流の同窓の場を言いついては、次回から一度の同窓会の機会を改めて認識し、次回からも四回卒の出席が好調でありますように幹事も頑張っております。

山本 隆 (4回)

早いものです。福岡同窓会が発足してまもなく5年になります。私は設立総会出席が縁で15回生の幹事を、その後総務委員長という大役を仰せつかりましたが、役員に見合う活動までには到らず、反省ばかりです。それでも今年の総会には出席者の多さもさることながら、大盛況で何よりでした。満足感と同時に次総会に向けての新たなスタートと受け止めています。福岡同窓会は、同期生の懇親の場であることも意義深いことです。諸先輩や後輩の方達との交流の場でもあります。蘊蓄のある先輩の話には人生の重みを感じますし、来年度を迎える年齢になり人としての磨きをかける意味でも、この会を活用させてもらい、後輩達に頼りにされる、良き先輩を目指して努力したいと考えています。一人でも多くの仲間の賛同をいただき、皆で福岡同窓会を盛り上げていきましょう。

吉田 眞一 (15回)

自律・眉秀いでたる...その様な言葉は単に校歌の上のものであり、遅刻坂をただ単に登って三年間を過ごしました。ところが卒業して半世紀を経た、NHKの気象情報「長崎西」の文字にすら心躍らせている自分に驚いています。そして年一回の福岡同窓会で校歌を大声で歌って「青春のど真中」に戻ります。ところで、平成十三年度の同窓会を六回、十六回、三十六回のたった三名で担当しましたが、私の能力不足のせいで、役員の皆様にご迷惑をかけてしまいました。でも、アトラクションのマジックショーを大勢の人が目を凝らして見て下さいました。成功したのだ!!その喜びを昨今のように憶えています。次回はきつと頑張るぞ!気持ちだけは若いのです。

川本 幸重 (6回)

同窓会の当番幹事は十年に一回まわってくる。これをいかに面白く、楽しくやるかである。義務的に仕方なくやるならば、やらない方がよい。まずは同窓会を準備する本人がいかに楽しむかである。聞いた話であるが、花火師は自分が打ち上げる花火をゆつくり楽しむことなどできない。今日の花火はよかつたよという見物客の声を聞いて、そうかといって満足するということである。なるほど、そういう満足の仕方もあるかもしれない。同窓会に関しては、逆説めくが、準備こそ本番であるという考えでやる方がよいと思う。同窓会当日遅れて参加する人もいるし、その他何やかやで当番幹事は食事もまともに食べられない。それならば前もって準備会で楽しんでしまえという訳である。いや、もともと何事も準備の過程こそが楽しいのである。時が経って思い出される楽しさとは、そういうプロセスである。準備の過程を楽しむためには、一つでもいいか(次ページ最下段に続く)



▲前会長峰さんありがとうございました。新会長と副会長より花束と記念品の贈呈。



▲お久しぶりですね。赤ちゃんも参加です。



▲女性陣は食べることに一所懸命。



▲当番幹事の方々お疲れさまでした。



▲同期の方々との気さくな語り。



▲恒例の「校歌斉唱」。心は高校時代に。



▲「ザ・ちこく坂オーケストラ2003」会場がぐっと盛り上がります。

H15.6.14 第6回総会を終えて 盛況200名

『各員一層奮励努力セヨ』

実行委員長 中河原 孝(8回)



長崎西高福岡同窓会も設立総会から数えて今年で六回目。今回は日時と会場を変更、六月十四日(土)の午後四時から博多駅前「ホテルステーションプラザ」で開催しました。恒例により今年の当番幹事は八のつく回生で、最先任である私はこの一年責任の重さをずっと感じていました。たゞ「指揮官先頭」の気持ちだけはありましたし、幸い昨年迄の実績の積み重ねがあり、また総会も迫った五月二十七日、役員幹事団が熱心に討論検討している姿に私は或る言葉を思い出しました。凡そ百年前のこの日、帝政ロシアのバルチック艦隊との日本海海戦でわが連合艦隊東郷平八郎司令長官の発した乙旗、「皇國ノ興廢此ノ一戦ニ在リ、各員一層奮励努力セヨ」です。懇親会で生演奏による校歌を斉唱しながら、ありきたりの表現だけれど年甲斐もなく胸の熱くなる思いがしました。この一年間私どもを支え励まして下さった多くの方々に、一々お名前があげませんが心から感謝いたします。

総会懇親会出席状況

卒業回	出席者数		年会費納入者	卒業回	出席者数		年会費納入者
	男	女			男	女	
瓊中会	3		10	24	6	6	23
1			5	25	1	6	13
2	1		7	26			6
3	2		13	27		1	9
4	4	3	18	28	5	9	21
5	7	3	18	29	2		5
6	2		14	30	4	3	10
7	5	5	17	31	1		3
8	4	9	16	33		1	6
9	2	2	12	34	1		1
10			9	35			1
11	4		9	36	5	1	8
12	5	3	15	37	2	2	4
13	1		8	38	7	3	12
14	6	4	19	39	1		1
15	7	6	26	41			3
16			9	42			1
17	7		11	43			1
18	6	2	12	44			1
19	2	1	9	46	1		2
20	1		5	47			1
21	5	6	18	49		1	1
22	1	1	6	54			1
23	2	2	8	合計	113	80	428

(年会費納入は8月末現在)

次回総会日程決まる

日時 平成16年6月12日(土曜) 午後4時
 場所 ホテル ステーションプラザ
 会費 7,000円(含年会費1,000円)

皆様のお誘い合っつてのご参加をお待ち致します。

西高生の頃の自分にタイムスリップしてもらおう事。開場のベル、始業・終業のチャイム、下校時の音楽など。職場が放送局なので効果音はすぐに見つかると思いきや、イメージに合う音がなかなか見つからず苦労しました。終わって見て、今年一番良かったのは「生演奏での校歌斉唱」と「女性幹事による乾杯」と「短い挨拶」だったのではないのでしょうか。皆様のフル活用しての準備が始まりました。短時間で仕上げができた。参考者も演奏者も楽しめ、曲、そしてフィナーレは校歌の大合唱。

福岡同窓会音楽隊デビュー 鈴木 伸一(30回) 「ザ・ちこく坂オーケストラ2003」音楽隊の名前です。今年6月に福岡では初めての同窓生による手作りのバンドが誕生しました。生バンドによる西高校校歌の合唱、皆さん盛り上がってくれて、苦労が報われました。話は前にさかのぼります。今年4月に25回生の柳瀬大先輩から、「バンドやるけん頼むね」「任せね」と言うのが第一歩でした。本番まで2ヶ月半。メンバー集めから、選曲、バンド編成に合うようなアレンジ、そして練習。普通のやり方では決して間に合いません。私が所属しているバンドメンバーからのお手伝い、パソコンソフト、ホームページによる情報の共有、と持てるリソースを

【曲目 2003】
 (1) Fly Me To The Moon
 (2) 千と千尋の神隠し
 (3) Nic's Dream
 (4) A HARD DAYS NIGHT
 (5) 長崎西高校校歌

広報委員兼編集委員が初めて顔を揃えてから約二ヶ月、随分あたふたとしましたが、福岡同窓会会報の創刊号を何とかお届けすることになりました。見て楽しい紙面(勿論中味もですが)を心掛けましたが、如何だったでしょうか。今回は「温故知新」に倣い、「故きを温ねる」ことから始めてみました。次号からはいよいよ、福岡同窓会の「らしさ」を会員の皆さんと一緒に創っていきたいと思います。一年に一回開催を重ねていく「総会」が同窓会の縦糸であるならば、会報は会員一人一人の生の声で染められた横糸でありたいと考えています。長崎西高で遙か昔に、或いはちよつと昔に学び、現在は福岡の地で年を重ね生きている皆さんの姿をほんの少しでも映すことができるなら素晴らしいことです。今後ともご協力を願います。

広報委員
 楠村 正治(7回)
 木下 師博(14回)
 奥田 邦夫(15回)
 於保 裕子(15回)
 成瀬 益雄(17回)

編集後記

(前ページ続き)
 ら同窓会に新しい企画を持ち込むことである。こんな企画をして本当にうまくいくのだろうかというハラハラドキドキ感が楽しみの根源である。このハラドキ感を共有して同窓会の準備をすれば、終つてからもその充実感、は長く身体を包み、ああ！ やってよかったなあという気持ちになる。花火師のように、自分が打ち上げた花火は見ずとも満足感に浸れるのである。
 松崎 栄一(17回)